

2020 とても長い春休み、中間報告？

佐伯 順弘

1. ある学校の状況

2月27日 安倍首相より「全国の小中高特別支援学校に対して3月2日より春休みまで臨時休校とする」よう要請が出る。それを聞いた時の職場の様子については詳細に記述したいのだが、守秘義務違反などに抵触するのも困るし、前科もあるので控えておく。3月17日、卒業式が11日遅れで実施される。その時の学校及び保護者の対応については一言二言どころではなく、2~300言あると言えばあるがこれも面倒なことになるといやなので控える。更に4月7日、入学式が新入生及び保護者、1年生関係職員のみで実施される。来賓、2、3年生担当所員は会場に入らず。

そして、翌日から4月19日まで休校延長。そして、4月20日から5月6日まで休校延長。さらに5月末日まで休校延長。

国及び自治体による、これらの措置について特に異議はない。既に近隣の市町ではCOVID-19が広がっており、感染の隠ぺいではないかと判断できる事案も発生していた。様々な対応については能力からすれば妥当なものである。

そのような環境の中、差し障りのないところで一教師の行動と生活環境についてお知らせしたい。

実のところ、「先生は暇になっていいね。」などと言われることについては我慢ならない。他の教員については特にコメントしないが、全員に対して「暇」だと言われることについては我慢ならない。「だって、早く帰って来ているでしょ。」おいおい、定時帰宅ができないこと、サービス残業、奴隷働きが標準のブラック体質が問題だっただけで、時間内に業務を済ませて退勤することは決して悪ではないはずだ。これまでは退勤時刻を1時間過ぎても生徒は学校にいたのだ。それをそのままにして帰ることなどできるはずがないではないか。現在生徒がいないのに、こんなに忙しくて退勤時刻を守るのか精一杯というのは、時間内に終えることが物理的に不可能な量の業務を抱えていたという証明である。他にもキツイ仕事はたくさんあるだろう。教員なんか甘えているんじゃないかという声も聞こえてくる。今回の混乱の影響で存続すら難しい企業がたくさんあるのになんの心配もないんじゃないかという声も聞こえてくる。いやいや、日常的に何をやっても叩かれ、非難の矢面に立たされ、法律的に奴隷働きが規定されて（特給法及び改正特給法）いる分込みで、この職業なのだからこういう時だけ、非難

されるのは承服しかねる。過去にもこういった理不尽な言われ方はあった。この職についての初任給は手取りで10万円もなかった。学生のときには2週間で15万円稼いでいたのに、1か月、土日もなく、女の子からの誘いも断り、夜10時過ぎまで働いているのに学生バイトの2週間分の稼ぎもない時、高校の知り合い（決して友人とは呼ばない。）はボーナスを100万ももらっていた。「どんな職に就くからだ。」と散々いってくれた彼もバブル崩壊の影響を受けた時、「公務員いいよな。」と言いつ捨てた。我々は景気がよくなってもほとんど給料は上がらないが景気が悪くなると給料下げられるのに勝手なことというものだ。それでも、自分の身を削り、人様の子供の学力が伸びれば心底喜び、弱小チームが勝てば苦労が報われた気がした。給料をもらっておきながら、目的は金ではない。そういう人間が集まってくるから、好きなだけ使われてしまうのだ。団体交渉権も最初から奪われているので、状況を好転させることなどできるはずもないのだ。しかし、今回のような状況の時は実に堅牢な業種である。学校がつぶれるとかこちらの不祥事でもないのに解雇されるとかそういった心配はまずない。結局のところ、何を言っても安全地帯からのヒットアンドアウェイであり、大多数の人々には賛同を得られないことも自明である。そういう立場からのお気楽極楽なコメントでしかないということだ。

さて、つまらん話が続いた。で、次は面白い話かというところでもない。結局、生徒がいなくても私は忙しいということだ。しかし、その忙しさはそれほどいやでもない。受け身の忙しさではなく、攻めの忙しさだからだ。さて、積み残しの授業がある。そして、新学期も2か月授業なしだということだ。なんとかしなければならぬ。幸い同じ職場には信頼できる上司やただ口を開けて待っているだけでない同僚が少しはいた。上司はもう一段階上から、できることはとりあえずできるだけやっつけていいという言葉を取ってきた。家でできる学習プリント作成、有名動画サイトでの授業公開、手分けして生徒宅への配送。接触を避けるために手渡しではなくポストインである。（ここで新しい事実を知ることになる。ほとんどの家庭でA4サイズの封筒を受け入れるポストは装備していない。また、おしゃれなポストで入れ方がわからないポストが少なくない。そして、防犯対策なのかポストに氏名がない、表札がない家があまりに多い。今はこういうことになっているのだ。全く知らなかった。教員は世間知らずとまた謗られることだろう。一人の例をもって全体を貶めるのはいかかかと思うが。）

さらには、ややスタートが遅いが、有名どころのネット会議システムでの授業を始める。最近の大学生はほとんどそういったネット環境を整えているようだが、中学

生となるとそうでない環境に置かれている生徒も少なくない。将来的にさえそういう環境を手に入れられないと思われる場合もある。ここでははっきりと経済力が学力に与える影響は小さくないと確認する。中学生でPCによるネット環境が整っている生徒とそうでない生徒がいる。何とかデジカメやビデオカメラをWebカメラに流用してネット会議システムに入る技術力のある生徒若しくは保護者とそうでない場合。このどうしようもない格差。どうにも埋められない。そして、それは教育の公平性を保証できないということでストップがかかるのがこの業界の基本である。しかし、今回の場合には、最上層部から「できるだけのことをしていい」という承認を取ることができたため、動いているわけである。鄧小平時代の「富むことのできる者から富め」という言葉を思い出した。思想的にはそんなに関係ないと思うが。

そんなわけで、とにかくできることはないかと考え、実行に移すのは楽しい。誰でもそうだが、言われてやるのと言われてやるのは天と地ほど違うのだ。

というわけで、生徒がいて普通に授業をした方が平和な気がする。ただ拘束時間は長くなり、労働時間が無期限なのはいただけないが。そんな風を感じるのは長年の奴隷生活に慣れ過ぎたからか。これを書いている5月上旬。5月31日までが休校ということになっているが、状況によってどう転ぶかわからない。それでも、6月1日から再開だと想定して準備をしていかななくてはならない。9月入学式とかいう話も出てきている。それでも今できることをできるだけやるというのが、私にとって最も心の平穏を保つことのできる考え方である。そして、いつになるかわからないが、たぶん訪れるであろう学校再開。戦いも、株も、休校も始める時より終える時の方が難しい。だが、せいぜい軍曹どまりの自分にとってはそういう政治的なもの考える役割が回ってこないだけ幸せなことだと思う。

2. 自然文化誌研究会 冒険学校について

そんな些細なことよりももっと重視していかななくてはならないのが「自然文化誌研究会」の行く末である。私にとってこれが重要である。

5月の冒険学校が無くなり、夏の冒険学校も困難。そして、INCH-Fes.はどうなるのか。真冬のキャンプへの影響も避けられないであろう。こうした1年間の空白によって今後の冒険学校にどんな影響が出てくるのかを考えなければいけないのではないかと。文章や口頭による知識や技術の伝承ではなく、様々仲間と関わり、自ら経験することにより気づかされたり、開発されたり、習得されたりする「能力」(流行なので非認知能力という言

葉は使わない。)が高められないのではないかと。それは冒険学校としてより質の高いものを目指そうとする現段階においてやはり痛手なのだ。新社会人になったばかりのメンバーに参加をしてもらうことは簡単ではなく、今まで積み上げてきたもの、繋いできたものが縮んでいくのではないかと危惧している。一方でその程度で消滅するものならばそれでいい。残るものはあるはずという楽観もなくはない。どのようなことに対しても、「深刻になるな、真剣になれ。」である。

COVID-19に対する治療法が確立するか、第2波、第3波への対応を間違わなければ、おそらく来年の5月の冒険学校は実施できるだろう。しかし、治療法は確立せず、第2波にすら対応を間違える可能性は十分ある。(実のところ、来年のオリンピックが実施できるなどとは思っていない。) そうなった場合、自然文化誌研究会の活動に2年間程度の空白が生まれることになる。そうした場合、我々の活動文化の継承はどうなるのかが若干心配になってくる。ただ、若干である。自分の場合を考えても、冒険探検部において、元ワングルの岩谷から学んだことは確かに少なくないが、野外行動技術のほとんどは独学であり、経験の中で確認、修正、向上してきたものである。また、集団行動の源流である軍事行動・作戦行動への興味からそういった方面の知識は小中学生のころから身につけてきた。また、職業柄「指導」の面についてもその戦略・戦術についてはある程度身につけてきた。木工、金工、竹細工、各種野遊びは保育園児の頃から祖父・父によって実践的に鍛えられてきた。このようなわけで、冒険学校が実施されない空白の時間があつたからと言って、全く何もできないとは思わないが、やはり冒険学校独特の雰囲気や「自然界と人間界のインタープリター」を育成するという観点、他人と交流したり、自己開示したりする観点からは冒険学校での経験が重要になってくる。

そこで、ここでも「できることをできるだけ」、「深刻になるのではなく、真剣になれ」ということで、いくつかの企画を提案したい。(もちろん、寝言の延長なのでそれほど深刻に受け取っていただかなくてもいいけれど、寝言の割には、本人はかなり真剣である。)

(その1) 今こそ、ネット飲み会!

誰かの後追いをしたり、流行に乗ったりするのは好きではないけれど、そもそもネット飲み会は8年以上前からやっていたので、マネしたわけではない。台湾に住んでいた時、日本の友達とよくやっていたのだ。そこで、今年度から始まるはずだった、冒険学校セミナー(名前は知らないけど、そういったイメージのもの)を行うのである。もちろん、酒を飲みながらいい。月に1回か、隔週か、一応期日だけ決めておいて、参加できる人だけ

で行う。途中参加も途中退出もあり。講師と調整役だけ決めておいて、気楽に楽しく。できれば、テキストは事前にダウンロードできるようにしておきたい。そこで、質疑応答もできるし、新しい発想も生まれるかもしれないし、何より顔がわかったり、考え方や話し方がわかったりするから、冒険学校が再開された時の入り方が円滑になる。スタッフと冒険学校の参加者が個別につながるのはいくつか、スタッフやスタッフ予備軍が集団の雰囲気慣れていくことはとても大切だと思う。

(その2) 読書と作文のススメ

中身は簡単。活動していく上で、もしくは学生としてこれは読んでおいてほしいという本の紹介をどんな形でいいからする。ネット飲み会の場でも構わない。それについての意見交換会(いわゆる読書会みたいなもの)をできたらいい。また、こういった文章を広く募集してお互いが読めるようにする。書いてみると自分の考えを整理できるし、じっくり相手に伝えることもできる。話す方が得意という人、書く方が得意という人、それぞれの表現について得手不得手があるけれど文字として残ると責任も出てくるし、よく考えるのでいいかなと。あと、今やっておきたいのは、工作手引書、応急手当手引書、集団料理手引書などの冒険学校の財産として残るようなファイルができるといいと思っている。

(その3) あたらしい活動

できない時こそ、出来るようになったらやりたいという発想が生まれることも多い。寝言レベルで構わないからこういうことやってみたいというのと伝え合うことも大切ではないかと。今やりたいのが、竹林に関わる里山活用。

放置竹林のせいで、山が荒れているところは地元にも多い。自分所有の竹林もあまり整備されているとは言えないが、今ちょうど整備しているので余計そう思った。冒険学校で竹細工をやるけれど、その竹を黒澤さんに確保しておいてもらうというのは甘え過ぎではないか。参加者自らが採りに行くべきでは?もしくは、そのプログラムを行うスタッフが採りに行くべきでは?(あ、俺か。) INCH-Fes.か、真冬のキャンプか、11月ころに入れる冒険学校セミナーに合わせて、竹林整備を行う。赤字の会の財政はさておき竹チッパーを購入して(もちろん、村の森林組合で貸してもらえたらそれが一番いい。) 伐採した竹を粉碎して竹林にまく。竹細工に使う分、たき火で燃やしてしまう分は確保。整備した竹林には筍も良く生えるから5月の冒険学校では筍掘り。5月か、夏の冒険学校では程よく乾いた竹で工作。余ったら全部燃やす。竹明りにする場合は、青竹をその時に伐採してくる。放置竹林の整備に手が回らない家も多いはずだから、少しでも日当を出してもらって竹チッパーレンタ

ル代などに充てる。こちらは、竹資材、竹燃料、筍、経験値、いくらかの金銭が手に入り、放置竹林の持ち主はそれほど高くない料金で、竹林を整備してもらえ。まさにwin-winである。

竹林整備事業はたぶんどこでもやっている。

3. 大型連休までの私の活動

テレビ・ラジオを付ければ、「ストレスに負けるな。」「コロナに負けるな。」という言葉ばかり聞く。いやいや、すいません全くストレスないんですけど。寧ろそういう決めつけがストレスなんですけど……。家にばかりいてストレス?家って安らぎの場では?運動不足?全くありません。自重筋トレは基本。自転車をローラー台にセットして2時間も漕げば汗だく。読まなきゃいけない本や読みたい本が山ほどある。作ってみたい料理もお菓子もたくさんある。休日前の夜には飲む酒やそれに合わせるつまみなどを考えてセットして、ただ味わう。部屋の片づけ、ギターの実習、栽培する植物の世話……。

全く暇などない。さらに……。

5月4日某運送会社の支店留で荷物が届く。



箱から出して、組み立てるのが一苦労。海外製なので、ネジ一つにしても加工が甘い。それを修正しつつ、組み上げる。素人にはできません。約 90kg の重量があるため、作業が大変。竹林に持って行くのに全力を使い果たす。



爆音とともに、竹が粉碎されていく。



こんな具合に竹が粉碎されるのは気持ちがいい。連休はいい酒、いいつまみ、いい作業。

コシアブラを取りに行けなかったのが、残念だったが、暇とは無縁の充実した連休でした。